

令和5年度〔丹後織物業の景況・動向調査〕 報告書

〔令和6年3月 公益財団法人 京都産業 21 北部支援センター〕

(公財)京都産業 21 北部支援センターでは、丹後地域の織物業の景況・動向を把握し、関係機関等の支援施策等での活用を目的に、丹後織物事業者のアンケート調査と聞き取り調査を実施しました。

なお、聞き取り調査は、西陣織事業者及び京都室町地域の流通関連事業者を加えて実施しました。

- 調査対象 丹後地域内の織物事業者(委託業者) 142 事業者
- 調査期間 令和6年1~3月(前回調査期間:令和5年1~3月)
- 調査方法 アンケート調査(回答者 85 事業者 回答率 60%)
聞き取り調査(電話・訪問) 丹後織物事業者 西陣織事業者 京都室町地区関連業者
- 回答数 所在地別 京丹後市 42(49%) 与謝野町 43(51%)
- ※参考 令和5年丹後ちりめん生産量 14.7 万反/前年比 93% (丹後織物工業組合データから引用)

I 〔事業者〕集計概要

- 主たる生産品 : 白生地 46(54%) [白生地内訳: 紋 26(31%) 無地 2(2%) 襦袢 4(4%) 小物 14(16%)]
帯地 19(22%) 先染着尺 7(8%) 服地 3(4%) ネクタイ 4(5%) インテリア地 1(1%)
その他 4(5%)
- 事業形態 : 内機のみ 38(45%) 内機・出機 24(28%) 出機のみ 21(28%) 無回答 2(2%)
- 織機稼働状況 : 内機稼働中 1~4 台 48(57%) 内機稼働中 5~9 台 19(22%) 他
出機稼働中 1~4 台 50(59%) 出機稼働中 5~9 台 8(10%) 他
- 従事者数 : 内機従事者 1~4 人 68(80%) 出機従事者 1~4 人 60(71%) 他
- 取引先 : 問屋 47% メーカー 44% 他

II 〔景況〕集計概要

※景況指数DI値:「非常に良い」「良い」と回答した企業の割合から「非常に悪い」「悪い」と回答した企業の割合を差し引いた値。

- 現在の景況感 : DI値は-45、前回(令和5年1~3月調査)の-27に比べ18ポイント悪化となった。
前々回(令和4年10~11月調査)のDI値-66に比べ21ポイント改善となった。
コロナ禍後の改善の兆しが見られた後、依然として厳しい状況が続いている。
- 今後の見通し : DI値は-50となり、前回の-21に比べ29ポイント悪化し、「やや悪い」「悪い」を合わせた回答が61%(前回43%、前々回64%)となり先行きの不安感は続いている。
- 現在の採算状況 : 「黒字」から「赤字」の割合を差し引いた値は+7となり、前回に比べ10ポイントの改善。
- 生産・受注量 : 「増加」から「減少」の割合を差し引いた値は-5となり、前回に比べ16ポイントの悪化。
- 今後の受注見通し : 「増加」から「減少」の割合を差し引いた値は-36となり、前回に比べ39ポイントの悪化。

III 〔経営を取り巻く状況〕集計概要 (回答数の多い上位項目・回答数)

- 経営に関わる課題 : 原材料費 66 調達コスト 55 売上・受注の減少 49 修繕コスト 48 外注加工費 47 他
- 人手不足の課題 : 織手 54 織機調整 42 準備工程 31 他
- 技術継承の課題 : 製織 48 織機調整 48 準備工程 26 他
- 生産体制の課題 : 機器修繕 48 織機調整 46 機料品 45 たてつなぎ 44 整経 42 製織 36 織り出し 29 他

IV 〔今後必要な取組〕集計概要 (回答数の多い上位項目・回答数)

- 人材・外注先確保 : 事業所での人材採用 41 出機の確保 37 他
- 設備等 : 設備修繕 48 設備更新 38 新規設備導入 22
- 製品の企画・開発 : 新製品の企画・開発 40 製品種類の変更 17 最終製品の開発 17
- 販路開拓・販売方法 : 取引先との取引強化 49 新規販路の開拓 24 他業種との連携 16 インターネット販売 15 他

V 〔事業承継〕集計

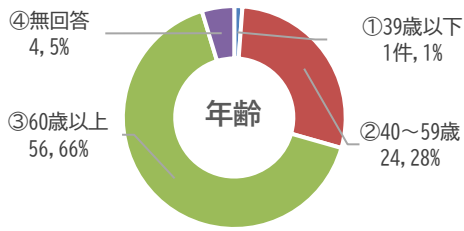
- 事業承継の予定 : 予定はない 29 予定がある 22 わからない 22 引き継ぐ先を探したい 7

VI 〔必要な支援〕集計概要 (回答数の多い上位項目・回答数)

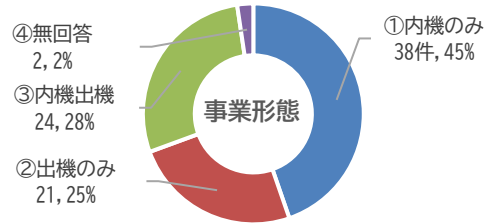
- 人材育成支援 : 織機調整 51 製織 48 準備工程 23 織物設計 21 経営改善 19 商品開発 15 他
- 技術に関わる支援 : 製織トラブルの原因究明 38 製品・素材開発 29 パーク設備活用 20 他
- 補助金などの支援 : 設備更新・修繕 58 新規設備導入 31 製品開発 23 販路開拓 15 他

I 【事業者】 集計

■代表者の年齢■



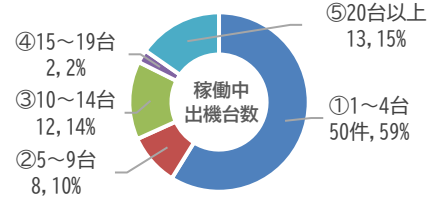
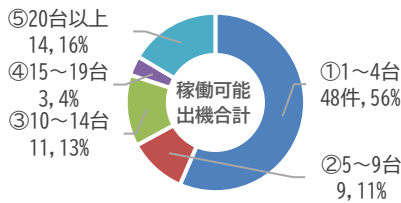
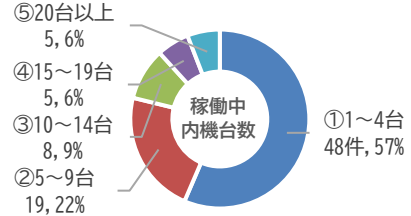
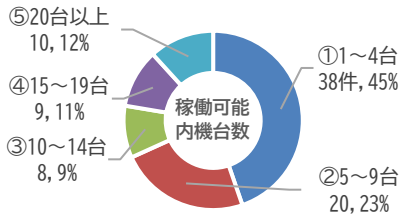
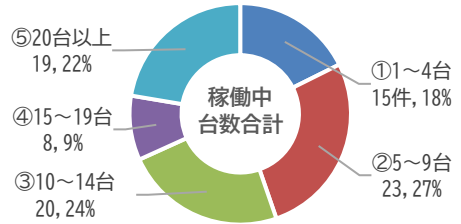
■事業形態■



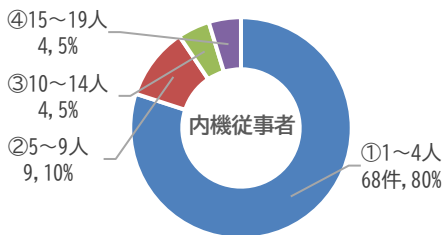
■事業規模1 稼働可能の織機台数■



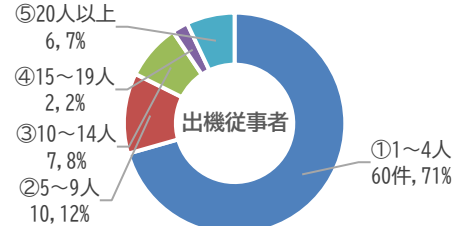
■事業規模1 稼働中の織機台数■



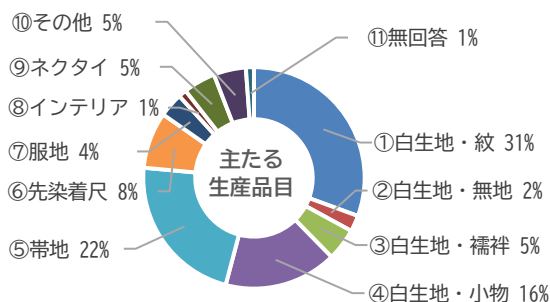
■事業規模2 内機従事者数■



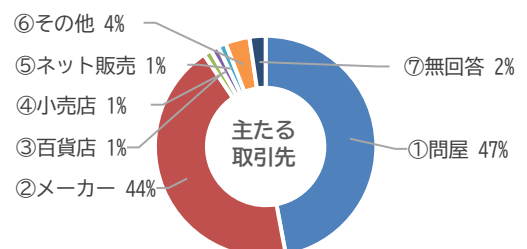
■事業規模3 出機従事者数■



■生産品目と生産量の割合■



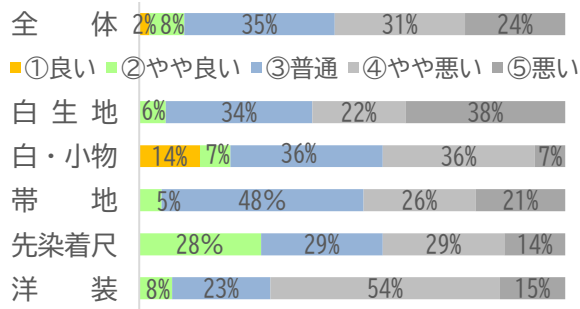
■取引先と売上の割合■



II 【景況】 集計

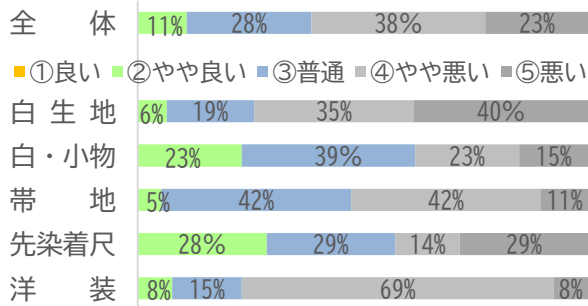
※DI値は、「良い」「やや良い」と回答した企業の割合から「やや悪い」「悪い」と回答した企業の割合を差し引いた値

1 現在の景況感



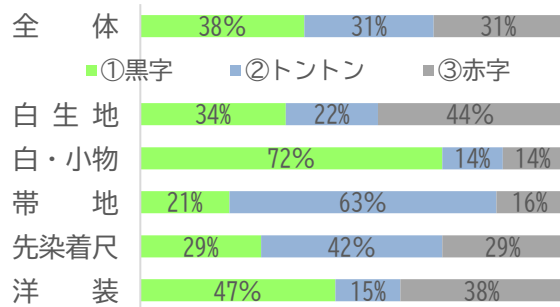
	DI値※	R5年(ポイント)	前年比較(ポイント)
●全体		-45	-18
白生地		-53	-14
白・小物		-21	—
帯地		-42	-19
先染着尺		-15	+18
洋装		-62	-57

2 今後の見通し



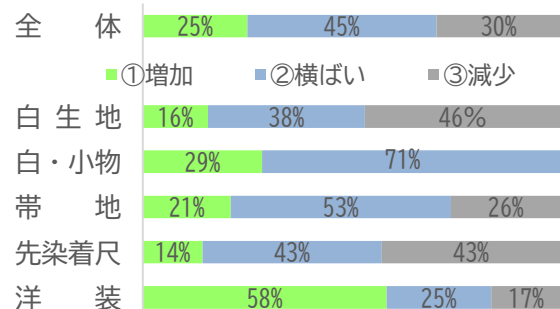
	DI値	R5年(ポイント)	前年比較(ポイント)
●全体		-50	-29
白生地		-69	-27
白・小物		-15	—
帯地		-47	-36
先染着尺		-14	-14
洋装		-69	-74

3 令和5年の採算状況



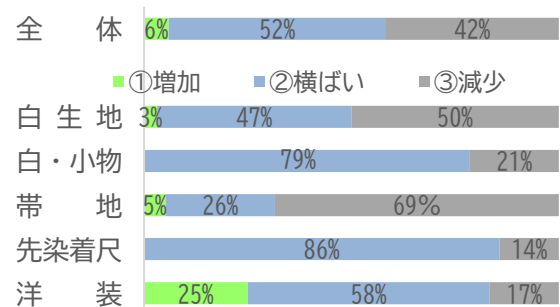
	黒字—赤字	R5年(ポイント)	前年比較(ポイント)
●全体		+7	+10
白生地		-9	-9
白・小物		+58	—
帯地		+5	+10
先染着尺		0	+33
洋装		+9	+9

4 令和5年の生産・受注量



	増加—減少	R5年(ポイント)	前年比較(ポイント)
●全体		-5	-16
白生地		-30	-30
白・小物		+29	—
帯地		-5	-5
先染着尺		-29	-29
洋装		+42	0

5 今後の生産受注見通し

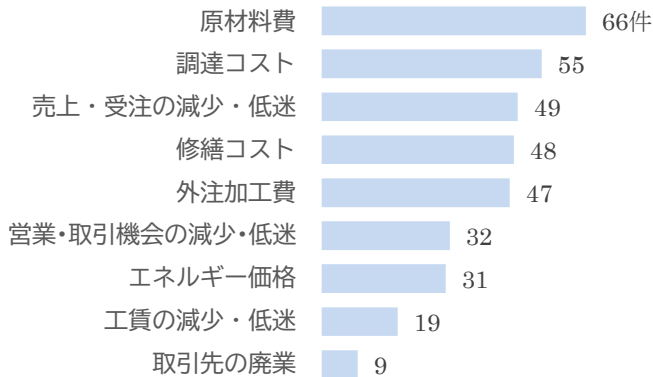


	増加—減少	R5年(ポイント)	前年比較(ポイント)
●全体		-36	-39
白生地		-47	-35
白・小物		-21	—
帯地		-64	-46
先染着尺		-14	-14
洋装		+8	-39

Ⅲ 【経営を取り巻く状況】集計

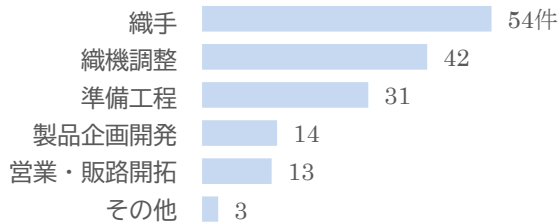
1 経営に関わる課題

(複数回答)



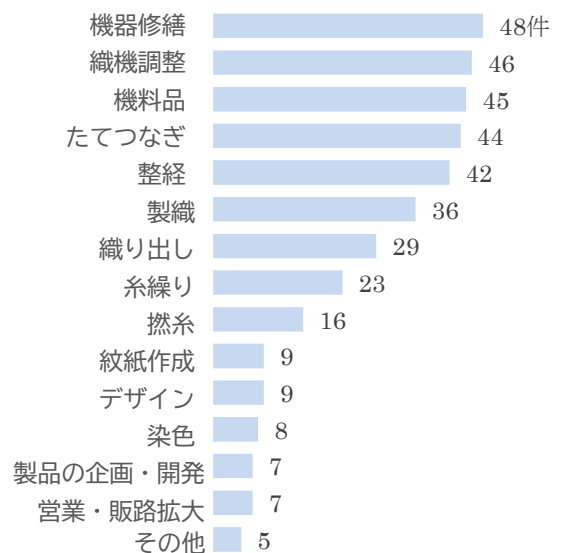
2 (1) A 事業所内の人手不足に関わる課題

(複数回答)



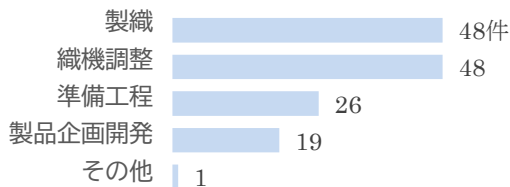
2 (2) 事業所外の生産体制に関わる課題

(複数回答)



2 (1) B 事業所内の技術継承に関わる課題

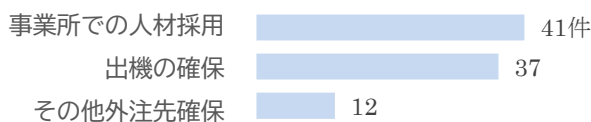
(複数回答)



Ⅳ 【今後必要な取組】集計

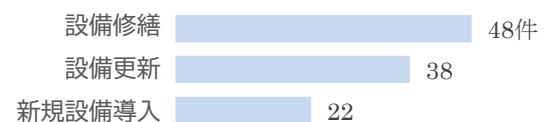
1 人材確保・外注先確保について

(複数回答)



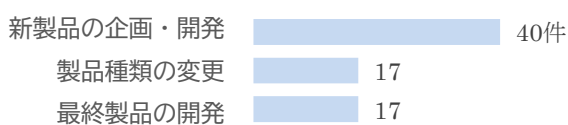
2 設備等について

(複数回答)



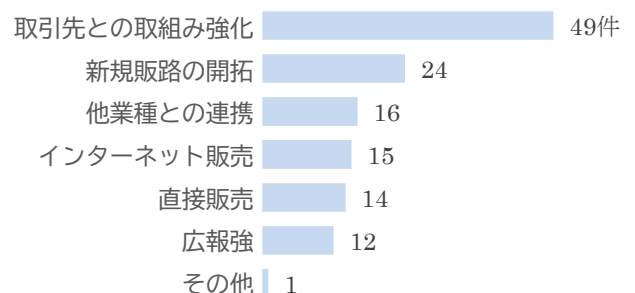
3 製品の企画・開発について

(複数回答)



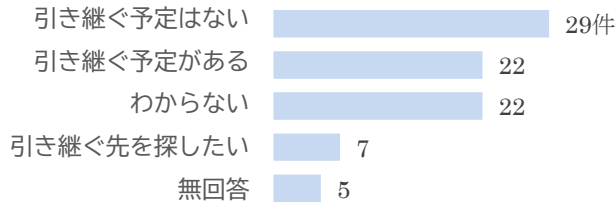
4 販路開拓・販売方法等について

(複数回答)



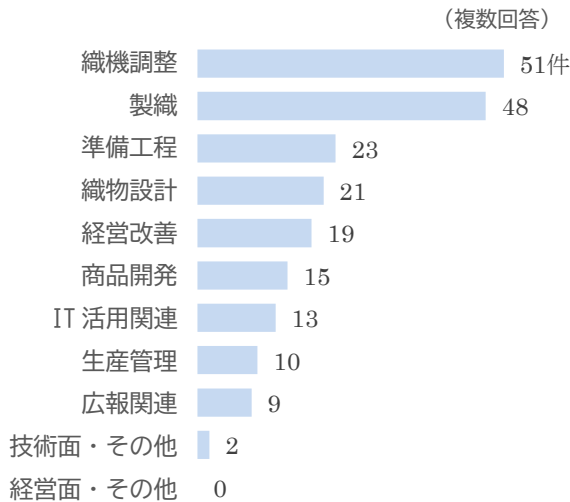
V 【事業承継】集計

事業承継の予定について

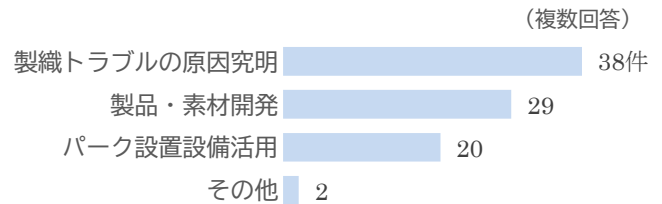


VI 【必要な支援】集計

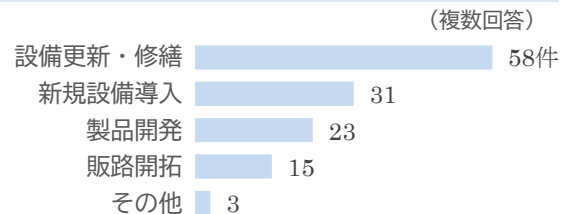
(1)研修など人材育成に関わる支援



(2)技術に関わる支援



(3)補助金支援



VII 聞き取り調査概要

●丹後織物事業者、西陣織事業者及び室町流通業者から聞き取りを行った概要は下記のとおり。

1 丹後織物事業者

●白生地

1. 昨年の秋以降、円の為替相場安、中国での生産量の減産、エネルギー価格などによる生糸価格の高騰（5年前の約2倍）が進み、丹後ちりめんの減産に繋がった。
2. 現在の生糸価格は白生地製造・販売の限界にきており、資金力のある大手機業でしか生産が続けられないのではないかと懸念されている。
3. 織手の高齢化に伴う退職・出機の廃業から、各機業とも生産能力が低下していると見られる。
4. コロナ禍以降着る機会が減り、また、成人式ではレンタル製品を着用するなど、ますます着る機会の減少が進んでいる。
5. 丹後ちりめん全体の生産量は減少している現状だが、需要に対してまだ生産過多の状況にあると考えられる。
6. 生糸価格高騰の価格転嫁は一定できており、白生地問屋から継続的に発注を受けているので今後の生産量は大きく変わらないと予測している。
7. 半衿、帯揚げ等の和装小物については、近年の生産現場の国内回帰の動きを受け、発注量が増える状況が続いている。

●帯・先染織物

1. コロナ禍後、昨年生産量は一旦増加したが、この先は出機の高齢化の原因で生産量は減少する。今後5年間で織手の高齢化が進むため、廃業することになるかもしれない。
2. 経錦など製織技術が求められる帯と先染着尺を生産しており、生産量・価格ともに安定し、経営は成り立っている。
3. 経営方針として、技術指導に力を入れ、特に若い出機を育てていかなければいけないと考えている。
4. お守り・神社用途の金襴を、数年前に拡大した自社工場と出機で製造しているが、コロナ禍後、昨年生産量は増加した。
5. インボイス制度がスタートしたが、出機が減少する中、西陣メーカーが消費税を負担する方式となっている。
6. 西陣メーカー数社と契約し、製品開発・生産基地として工場の役割を持ち、今後も織機の増設・織手の雇用など、工場拡大を計画している。
7. これまで振袖用の帯を中心に自社製品を製造してきたが、コロナ禍の在庫過多などによる振袖需要の減少に伴い、しゃれもの用帯への製品転換を進めている。

